

第三回 朝霞基地跡地利用計画の見直し(案)

1 第1-2回会議を通しての基本的認識

- 1) 朝霞基地跡地の整備には、20 - 30 年余を超える長期にわたり、多額の予算投入を必要とするものと思料される。この前提に立つとすれば、空間・時間スケールを改めて認識し、都市経営の視点から、この跡地の利用を見つめていくことが求められる。

これまでに各委員からいろんな意見をいただいているが、緑を望む一方で、実現性について一抹の不安が覗く。その背景には、この基地跡地の利用をどう実現し、維持していくかといった経営の視点が見えてこないことに関わるものと考えられる。

これだけの規模の空間(概ね 600m×800m)を持って余すことなく、的確に使っていけないとすれば、その一部が荒れた空間と化すことも懸念される。中心部が荒廃する都市のイメージアップは、容易ではない。

- 2) 都市経営の観点から見ると基地跡地の利用に伴う多大な投資を継続していくには、次のようなシナリオが考えられ得る。

- ① 「次の朝霞をつくる」という、市民の間の基本的合意(多少の痛みを受忍)
- ② 朝霞跡地の利用により人の流入、周辺地価の増進(税収増)
- ③ 税収をもたらす事業所等の周辺又は基地跡地内立地(税収源の増加)
- ④ 開発利益の吸収

- 3) 特に、シナリオ①の、次の世代が基地跡地に伴う継続した負担増を受け入れていくには、基地跡地がいかなる拠点像を目指し、それが市民の生活や暮らしにどう関わってくるのかが、次の世代も含め市民が実感をもって感じられるものでなければならない。

例えば、都市の成熟にあわせ、みんながそれぞれに“暮らし続けたいと想うまち”、それは次の朝霞市民の気持ちと形となり得る。その先導役を朝霞基地跡地が務めることになるのであれば、若干の負担増について、市民の理解を得ることは可能であろう。

市民それぞれに“暮らし続けたいまち”とは、“そこに生き生きとした暮らし”があり、“魅力とやりがいのある仕事”、“我がまちに対する疑うことのない誇り”、“市民の間の絆”、“朝霞ならではの暮らしの楽しみや、楽しみ方のスタイル”に溢れるまちであろう。むろん安全・安心は欠かせない。多くの市民が、それらを朝霞基地跡地で実感したり、同基地がその先導役(モデル拠点)となったりすることがイメージされる。言い換えれば、“次の朝霞づくりの拠点”といってもよからう。

4) シナリオ①で十分でないとするれば、シナリオ②、③、④についても検討していく必要がある。

2 策定の基本的考え方

1) これまでの計画を白紙に戻すようなことはせず、次のような「状況の変化への対応」、「これまで議論が不十分であった点の整理」を中心に議論を積み重ね、より幅広い市民合意、実現可能性の高い、利用計画に深めていく。

- ① 朝霞基地跡地の利用については、平成20年度に、基本計画が策定。しかしその後、公務員宿舍計画の見直し、財政状況・見通しなど、新たな状況が生じている。
- ② また計画の根幹となる基本理念については、引き続き、これを尊重していく必要があるが、やや膨らみを持った考え方となっており、今後、計画を実現に移していくには、そのイメージや考え方をより具体化していくことが求められる。抽象的な議論や理念的な論議だけでは、市民はそこに夢を描くことも、想いを重ねることも叶わず、多額の投資に対し、的確な判断を行いにくい。
- ③ その一方で、朝霞基地跡地の利用の仕方は、多額の市費の投入を必要とすることからすれば、広くその実現が市民の願いとなるためにも、次の市政の方向(シティセールスなど)や、実現可能性の観点にも、十分に留意していく必要がある。
- ④ 朝霞基地跡地の利用については、その特色ある自然資源、空間規模に着目し、自然・レクリエーションや公園・緑地等に関する議論が必要なことは否めない。しかしその利用の仕方が、次の朝霞の方向を大きく左右するだけでなく、この先時代が進んでも、これだけの空間を確保することは不可能といってもよいことからすれば、これまでの議論で漏れている視点がないのか。この点をしっか

り押さえておくことが重要である。

- 2) 今回の計画の整理は、朝霞基地跡地利用のグランドデザインとなるものであり、今後の朝霞市の未来を大きく方向づけるものとなり得る。またその完成には、相当の期間を有することから、計画案に加え、「実現化策（実現に向けた考え方）」、「留意事項（引き続き検討が求められる事項）など」についても整理が望まれる。

3 議論の仕方

- 1) 毎回、出された意見をもとに、基本的な合意事項を整理・確認し、それを基軸に議論を積み重ねていく。
- 2) 委員間で、やや相反する意見についても、極力、無理に一つの意見に整理せず、事務局において、それらを折衷する利用案や、それらを飲み込んだ工夫案を提示することで、合意を見出していく。
- 3) 抽象的な表現、理念的な表現により、深めた議論が中途半端な形で終わらないよう、極力具体的なイメージ、題材を提供することで、より効果的な議論を進めていく。

4 枠組み

- 1) 目標年度；21世紀中ごろ
- 2) 対象地域；「朝霞基地跡地」及び「一体的利用又は提案が必要とされる地域」

5 見直し計画の章立て（素案）

今後の議論の参考とするため、イメージとして素描したものであり、内容については今後、議論。

① はじめに（計画策定に当たっての考え方）

② 基本理念

基本的にはこれまでの計画を受ける。よりイメージを鮮明化する内容の充実。

・シンボル ・周辺との連携 ・実現可能性

③ 計画方針

・シティセールスの観点を入れる。

- ・たとえば、『次の朝霞づくりの拠点』を具体的に描き出すため、生涯学習都市、健康文化、男女協働、高齢社会、都市文化創造、環境都市など、次の時代のキーワードとの関係を整理する。
 - ・具体的なイメージを極力挿入する。
- ④ 利用計画
- ・土地利用計画、導入機能計画、施設配置計画
 - ・主要ゾーンのイメージ
- ⑤ 実現化方針
- 財政可能投資額の検討、周辺の地域の活用、収益性の確保策、民間活力の導入などを検討する。
 - 新たな手法の開発。
- ⑥ 配慮事項（実際の利用に合った手の提言を盛り込む）
- たとえば基地と周辺全体の総合的管理方法、ファイナンスなど